



千葉労働新聞

組合労働車動千葉鉄道
〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)
電話 (鉄電) 五葉 29335・29339 番
(公) 043 (222) 7207

97.9.17 4660

初心志願がからず

木野さんに聞く(下)



一つの大きな流れを作るといふことで、交流センターが形成された。
動労千葉の中の任務配置として、総連合の委員長と交流センターの事務局長も兼務してやっ

動労千葉が責任をとる

総連合・交流センター

たんですけどね。それは、動労総連合にしる、交流センターにしる、その中軸的な力になるということは、当然のね、動労千葉が組織として担うべき任務だったって思ってたよ。

それで、いよいよ分割・民営化反対闘争に至る。我々は、一九八五年に第一波闘争、八六年に第二波闘争と、動労千葉は全力を出してやりきった。
そうして、動労があれだけ完全に変質していく中で、動労の心ある人達は、やっぱり潔よしとせず、独立していくという事が起きた。水戸や高崎が、分割・民営化の先兵になるような動労から訣別していくと。
そうして、動労総連合が八六

年一月に結成された。その後動労西日本が合流し、総連合の仲間達は動労千葉の闘いを孤立させずに、連携しながら各地で奮闘しているわけだ。
動労総連合はね、動労千葉が責任をとるといふことで、俺が初代の委員長に担ぎ上げられた。まあここまで来たらトコトンやるしかないだろうと、短期政権のつもりで受けたんだけど、とうとう十年間委員長やっちゃたという感じです。
総評が解体され連合化していく、労働運動が叩きつぶされ、変質していくという状況。一方で、資本主義が行き詰まり、今の体制じゃ、民衆を食わしていけないような状況。労働者は原点に戻って、闘いを通じて自らの生活を守る、未来を切り開く以外に道はなくなってきた。
こういう時代に、労働者の先頭になって闘いうる労働運動の潮流をつくらなければいけない。そのためには動労千葉の運動を全国展開していく、全国で苦闘している仲間達と連携しながら戦闘的な労働運動の再生を願う



動労総連合が4回定期大会でおいせつする、木野総連合初代委員長

またその事によって、動労千葉の四十名の解雇者が支えられ闘い続けられたわけだから、そういうものとして、積極的な意義のある運動だ。ぜひ、これを引き続き発展させていってもらいたい。
JR体制打倒の闘いも、JRの中だけの闘いじゃなくてつねそれは、JRの状況つてのはね全政治情勢に規定されて起きているわけだから、それを乗り越

きのうの五木にギョーと戦闘力

カマ廃止反対斗争・市評送

運動区廃止反対の署名を、ほとんどの家庭からとってきたってね。

勝浦運動区廃止攻撃というのには、要するに、当局と革マルが一体となって、動労千葉の拠点をつぶすという攻撃だった。今まで俺の経験だと、「なるか会」のように、職場がなくなるといふ問題については、みんな動揺すんのね。だけど、この革マルの攻撃に対してはね、みんなキチンと受けとめたってことだな。

運動区はなくなっちゃうかもしないけど、それに異義ありと、キチンと言わなきゃいけないし、やらなきゃいけない。地域住民の足を守るという事とあわせて、運動区の存続ということとはね。

職場の中だけの、JRの中だけの問題にしないで、地域に全面展開した。勝浦市の動態地図を全部ひろげてね、それをうちの組合員が個別に回っていった



勝浦運動区廃止反対の署名を支社に提出

その取り組みつてのはね、ものすごいエネルギーと戦闘力だと、それが勝浦の市会議員選挙にまでダーツとなだれ込んでいって、全市を席卷するよな選挙運動が署名運動に連続した形で長期にわたって行われた、ほぼ半年ね。これは大変なことをやり抜いたと思う。

それで最後に、三日間のストライキの中で、組合員が意気消沈することなく、それぞれ動労千葉の旗を立てて、それぞれの任地に赴きその組織と合流すると。で、新たに鴨川支部結成大会までやって、実質的な職場の主導権を取っているのは、うちの組合員だっているね。

勝浦運転区廃止反対闘争から市議選と、こういう運動としては、かつてないことをやりきった。こういう経験をもった労働組合は、俺は一つもないと思うね、それはもう確信もっている。だから、そういう運動に支えられて議員になったから、それに応えるような議会活動をしなきゃいけないと思つてどこの会派にも入らずね、一人会派で、しかし協力出来るところは協力しながら、批判することや言うべきことはキチンと言うと。どこにも災いされない、自立した議会活動やろうと。その事を市民に組合員に全部報告して。



〈分割・民営化阻止！オ！波ストライキ-津田沼牧卓〉

ハラ固めて、

鉄道生活で一番印象に残っていることは、やっぱり、ジェット闘争と分割・民営化の闘いだよね。だから、出来るってことなんだよ。みんなハラ固めてやるのは不安や動揺もあるだろうけども、まず執行部、現場も含めてね。ハラ固めてやる気になったときには、本当にできる。

そのためにはやっぱり、家族も含めた徹底した討論をね。闘いの過程で、全支部家族を含めた討論集会やつたでしょう。これは本当に闘いを組織する時にはね、執行部としてはそこまで踏み込んでキチンと責任を取りきるようなことをやっていけば組合員は必ずそれに応えてくれるという自信はもったよ。

支部においても、本部においても、そういう迫力のある組合の役員に対して組合員は信頼すると、役員たるものさうありたいね。

まあ、初心忘れるべからずで田舎に引つ込んだらよかったんだけども、全国の仲間と連帯してね運動を進めていきたい。

そのためにも俺は、議員でないあいだはいくつになろうが動労千葉の正組合員として、みんなと一緒にやって行きたいと思うんで、これからもよろしく。



「くろろさま」と言うにはまだ早い、「生涯現役」の水野さんでした。
山口さん、水野さん、たいへんいいお話、ありがとうございます。大先輩の闘いを受け継ぎ、発展させていく決意です。
(日刊編集委員会)
組合員の皆さんへ。
今度の第二十五回動労千葉定期大会では、山口さん水野さんの激励会も行われますので、奮って参加しましょう。

定期大会 鴨川館 / 9/20.29
〈勝浦市政に新風を！
ファイト満々の水野さん〉